

令和6年度第1回会議尼崎市スポーツ推進審議会 会議録

日時：令和6年10月3日（木）午後1時～午後2時35分

出席委員：9人

伊藤委員（会長）、河野委員、尾崎委員、木村委員、白川委員、谷委員、常行委員、徳山委員、萬代委員

事務局：5人

社会教育部長、スポーツ推進課長、スポーツ推進課係長2名、スポーツ推進課書記

関係課：3人

企画管理課係長、企画管理課書記、保健体育課長

傍聴者：なし

議題1 令和6年度 尼崎市スポーツ推進計画の進捗管理について

委員：基本方針1 子どもの運動能力の向上について、小学校への指導者派遣を実施している中で、派遣回数を増やしたことで小学生のポイントが上昇したという結果が出ているとのことだが、引き続きいつまで続けていくのか。指導に行かないと体力の向上が続かないということであれば、来年度以降も続けていかないといけないと思うが、いつまで続けていくのかという計画はあるのか。幼稚園・小学校で体を動かすことを好きにならないと、中学生になったときに運動を続けるというのが難しいと思う。小学校6年間は、数値を維持・向上をするために、指導・予算がかかるものだと思うが、続けていくことが良いと思う。

事務局：運動指導員の派遣については、昨年度プロポーザルを実施し、スポーツ振興事業団にお願いしているところであり、来年度までは現在の形態で実施を予定している。その後は、中学校の体力の部分に課題があると考えているので、そこを含めて検討したいと考えている。委員ご指摘のとおり、小学生の間は大切な時期であると認識しており、日ごろから運動に親しめるよう、保健体育課より運動例やなわとびを使ったチャレンジを提案している。

委員：各地区体育館や社会体育施設で広くスポーツを展開している。広く展開はしているが、次のステップとして、競技団体へのアプローチが必要であると考え。卒団した後に、協会へ連絡をしているが、連携や流れがライフスタイルによって変わるため、途切れないようなシステムをスポーツ推進課が中心となって、協会、事業団、学校が協力して作れたらよいのでは考えている。

委員：指導者派遣の種目はどんなものがあるのか。

委員：学校からのオーダーで行っている。体育の授業のサポーターなど。

委員：あまっこ体力向上プランは小中学生が対象だと思うが幼稚園児に対しては何かあるのか。

事務局：あまっこ体力向上プランの5ページにある、リズムジャンプというものを取り入れてもらうように、体力向上部会（小中幼参加）で取組を進めている。数園で実際

に取り入れてもらっている。

委 員：基本方針 3 で大庄健康ふれあい体育館の TM で昼常設の格技室を取り入れたとしているが、その他の情報や意見はあったのか。

事務局：今回は、体育館と老人福祉センターの複合化というものであることから、多世代交流の促進に関する意見や、公園が隣接することから公園との一体的な利用に関する意見、また防災面での意見があった。

議題 2 第 2 次尼崎市教育振興基本計画について

委 員：モデル校 3 校と 13 運動部 1 文化部はどこか

事務局：中央中、大成中、大庄北中、部活単位では重複している部活がある。競技は、サッカー・野球・陸上・バレー・バスケ・ソフトボール・ソフトテニス・剣道・吹奏楽がある。

委 員：部活動が地域移行した割合が令和 11 年度では 100%となっているが、令和 6 年度はどういった動きをしているのか。

事務局：令和 6 年度は先ほど説明した部活で取組を進めているところである。移行とは、部活動をやめて地域クラブに移行するということであり、今現在、移行できているものは 0 である。今のモデル校は学校単位の部活動の一部を学校管理外で実施しているが、今後は学校区を超えた地域クラブの移行を推進していく。

委 員：アクティブチャイルドプログラムというものがある。子どもたちが将来に渡ってスポーツを楽しむというものであるが、日本ではどうしても競技志向になる。また少子化の関係で子どもたちの取り合いのようになっている。子どもたちのことを考えるとやはり将来に渡ってスポーツを楽しむことが大切であると考えているが、市としてはなにかそういったものがあるのか。スポーツ少年団では、団員構成を小学生からの受け入れから 3 歳からの受け入れとしている。3 歳の子どもたちは、何かモノがあれば、彼ら自身でルールを決めて遊び始めるが、そこには必ずスポーツが絡んでいる。遊びの中にスポーツがあることで、とっつきやすくなり、スポーツを楽しむ、そこから何かの競技に進むという流れになると思う。市としても、そういったとっかかりとなるものを作っていただきたい。

事務局：あまっこ体力向上プランの 8 ページにあまっこなわとびチャレンジというものがある。何かに特化したものではないが、近しいものがあると考えている。

委 員：コロナが収束してきてようやく外で遊べる環境になってきている。公園などの遊具をスポーツに親しめるようなもの等、施設の整備も必要ではないか。公園で親子連れが遊んでいる光景が少なくなっていると感じる。せっかく公園がたくさんあるのだから、体を動かす機会の確保につなげるべきだと考える。現代はスマホが普及している。現場で感じることは市報等でのアプローチがもっと必要かと思う。若者はスマホで調べられるが、高齢者は市報やチラシなどで知ることが多いと思う。施設整備や情報発信がもっと必要だと思う。

事務局：園庭開放等、親子で参加できるイベントを開催などは行っているが、委員ご指摘の

ようにきっかけとなるような情報発信をもっと行っていかなければと考える。スポーツ推進委員の方々には公園での指導をしていただいているので、そういったこともひとつの手であると思う。

議題3 尼崎市スポーツ推進計画の時点修正について

委員：社会情勢も大きく変化しているところなので、そういったことを加味して時点修正していくことは大切だと考える。次回の審議会で原案として出してもらえるのか。

事務局：そこまで精緻なものとしての提示できないと考える。こういった点を修正していけばよいのではという簡単な内容の提示となると思う。スポーツ推進計画の内容のいくつか、教育振興基本計画にもあるが、そこの目標指標等の整合が取れていないということを是とするのか。また、東京オリンピックの記載があることや、コロナに関する記載が現在はないが、そういった点についても言及するのか等、踏み込んだ意見ではなく、簡単なもので意見をいただきたいと考えている。

委員：東京オリパラからワールドマスターズゲームズの方に移行していかないといけないのではと考える。概要版でもバレーボールリーグの名称が変わっている等細かいものもあると思う。

委員：スポーツのまちあまがさきと謳っているが、市としてこれが「尼崎のスポーツ」というものはあるのか。

事務局：特定のスポーツというよりかは、幅広いスポーツや様々な種目で様々な方が関わって楽しんでいるという点からすると、特定のスポーツを尼崎のスポーツと銘打っていくというのはすこし難しいと考える。

委員：市となると難しいかもしれないが、町や村では定めているところもよく話を聞く。おもしろい取組ではあると思う。

議題4 パラスポーツについて

委員：障害児者のアクティブエイジングの研究を行っている。競技性というよりも地域スポーツ・健康づくりという視点での研究である。尼崎でアンケート調査を実施し、成人58名と19歳までの方18名の分析からニーズが明らかになった。全国では週1日以上運動をする割合32.5%、尼崎36.2%、週3日以上(日常的)18.1%、5.2%。実施していない割合全国40%以上、尼崎26%と、尼崎市は非定期的に実施している方の割合は多い。19歳までの回答では、週1日以上全国34.4%、尼崎22.3%であり、若年層でのスポーツ実施状況に課題があり、伸びしろ部分と考えられる。種目的なニーズの観点で、健常者含めた成人が実施する種目としては、散歩、ウォーキング、体操というものが上位に上がる。尼崎市の障害者の方もほぼ同様。散歩、ウォーキング、体操、水泳、筋トレ等健康づくり系の種目が上がる。19歳未満だと水泳がやりたい種目で上位になる。その他、トランポリン、ボッチャ、ダンス、体操という結果が出ている。他自治体でも水泳、トランポリン等の競うものではなく個人レベルで楽しめる種目のニーズが多く上がっている。パラスポーツということ

で、競技としてのスポーツとライフステージに応じた生涯スポーツという意味での地域の障害者スポーツに関しては底辺の伸びしろがある状況となっている。

委員：プールについては介助者の方も入ってもよいとして、使用料を半額にしたところ利用者が増加した。トレーニングスペースにも障害者の方、介助者の方の利用が多く見受けられる。気軽に利用できるというのが大きいと考えられる。

委員：常行委員からもあったように、伸びしろもあるのではないかとということで、市のスポーツ推進計画のなかにも、時点修正のタイミングなどでパラスポーツのことを盛り込んでいくことも必要ではないかと思う。

事務局：常行委員の研究の中で、交通手段や身近にあるというご意見が多くあったように見受けられる。費用面がかかることがネックになると考えており、競技性の高い方向なのか、すそ野を広げていく方向なのか市の方向性を悩んでいる。

委員：尼崎市に関わらず、特別支援学校などの調査では、送迎やサポートする人などマンパワーがネックになっている。高知では、特別支援学校に指導者派遣を展開することや、特別支援学校の同窓会のルートを駆使し、地区体育館への受け入れができるかといったコーディネートを実施していた。指導者の巡回のような形をとっていることや、送迎バスを活かして実施しているという事例もある。

事務局：障害者向け施策として実施すると、専門性が高まり事業規模も大きくなる。障害者も健常者も一緒にという機運が高まっていると思うので、インクルーシブな方向に持って行くかというところが悩ましい。

委員：やはり人材が必要な話になる。一人のところは二人三人と必要になる。

委員：障害者スポーツの研修を実施したという報告があったと思うが、別の尼崎の資料の中で、現在障害者スポーツの指導資格を持っている方、かつ活動意欲のある方が12名いるというものを見た。その方々のマッチングがうまく行けば拠点がいくつかできるのではないかと思う。

委員：スポーツ推進計画の中に落とし込むとなると、トップレベルのスポーツというよりは、インクルーシブな形で健常者の方と一緒にスポーツを楽しんでいくのか、場所の確保等の部分をどう取り組んでいくかというところになろうかと思う。

委員：記念体育館のメインアリーナやサブアリーナでの車椅子競技は可能なのか。健康ふれあい体育館でもそういったところを意識してみてはどうか。

事務局：長寿寿命化工事等に合わせて、シート張りにしているため、交換は比較的行いやすいところもあるため、調整検討は可能と考えられる。

委員：競技によってはシートを敷いて競技を実施することもよくある。そういう意味でもユニバーサルスポーツというところは実現できるのではないかと考えられる。

以 上